

群 教 セ	E03 - 03
	平14.207集

# 自信をもって活動する子どもを育てる 生活科指導

- 振り返る活動にポートフォリオを取り入れて -

特別研修員 筑井 みつ子 (富士見村立時澤小学校)

## 研究の概要

本研究は、ポートフォリオを使って自己の学習を振り返ることにより、子どもが自分の学習を評価し、次の活動への見通しがもてるようにする生活科指導の研究である。

各学習過程において、ポートフォリオを使って自己の学習を振り返ることで、自分なりに見通しをもち、できそうだという自分への可能性を見出ししていく。そのような過程を通して、生き生きと自信をもって活動できる児童の育成をめざしたものである。

【キーワード：生活科 ポートフォリオ 振り返る活動 見通し 自己評価 他者評価】

## 主題設定の理由

生活科の究極的な目標は自立への基礎を養うことにある。生活科の学習は、具体的な活動や体験を通して自分のよさに気づき、生活することへの意欲や自信をもつようになることを目指している。生活科で身に付けていく自ら進んで計画を立てて実行する力や、積極的に自信をもって活動する力は、子どもたちのその後の学習や生活を支える重要な資質・能力となる。

本学級の児童に目を向けると、素直な子どもが多く、生き生きと活動する場面をよく見かける。しかし、他から指示されるのを待っていたり、細かに確認を得ないと活動に踏み切れなかったりというような自信のなさが見られる。これらは、具体的な体験の不足や、教師主導の指導によるところが大きいと考える。教師が学習環境や活動するための条件をほとんど設定してしまい子どもの自己選択・自己判断の余地が少ないため、学習対象とのかかわり方や学習過程において、主体的に取り組む態度に弱さが見られる。

自信をもって取り組むためには、子どもが対象に思いや願いをもち、それらを実現させるための方法を考え、選択し、自分なりに見通しをもつことが大切である。そして、自分の中で納得して、やれそう、できるといった自分への可能性を見出ししていくことによって確かなものになっていく。さらに他者から認められたり、称賛されたりすることにより、自信をもつことになる。その過程で体得した満足感や自己肯定感を積み重ねていくことが、次の活動への意欲につながっていくであろう。

そこで本研究では、自信をもって活動をする子どもを育てるために、自分の見通しをもって学習に取り組めるようポートフォリオによる評価を取り入れる。ポートフォリオによる評価は、子どもが自分でめあてをもって自分の学習を評価し、次の学習への見通しをたてるのに有効な手だてであるといわれている。

本研究においては、まず学習のねらいとなる評価規準を子どもに示す。そして、子ども自身にこの単元の学習を通してなりたい姿を意識させ、学びの方向性をもたせたい。問題を解決するために様々なことを調べたり、インタビューをしたり、ごっこ活動を体験したりする中で学習物等を蓄積していく。活動の節目で自分のポートフォリオを振り返ることや、教師や友達との対話を通して、今までに何が分かって何が分からないのか、次に何をすればよいのかを子ども

もが見つけられるようにする。そうすることにより、子ども自身が学習の主体者になることができる。また、ポートフォリオは学習の初めから終わりまでの学習物等を蓄積していくので、時系列的な学びの足跡を自分で見比べることができる。どんなことができるようになってきたかという具体的な進歩や成長が分かり、自分のよさや可能性に気付いていけるであろう。

以上のように、振り返り活動にポートフォリオを取り入れることにより、自信をもって活動する子どもを育てることができると考え、本主題を設定した。

### 研究のねらい

学習過程の振り返る活動にポートフォリオを取り入れることにより、自信をもって活動する子どもを育てることができると実践を通して明らかにする。

### 研究の見通し

- 1 「追究する」過程の振り返る活動において自分のポートフォリオを使って学習を振り返ることや、教師や友達と自分の学習について対話することによって、めあてに対して今までに何が分かって何が分からないのか、次に何をすればよいのかが明確になるであろう。
- 2 「まとめる」過程の振り返る活動において、まとめのポートフォリオを基に他者からの助言や感想などの肯定的な評価を受ければ、子どもは達成感を高め、自信をもって活動するようになるであろう。

### 研究の内容と方法

#### 1 研究の内容

##### (1) 自信をもって活動する子どもとは

身のまわりの人や社会や自然とのかかわりに関心を持つことができ、それらの対象に思いや願いをもち、その思いや願いを実現させるために見通しをもって自分なりに追究していく子どもと考える。

##### (2) 振り返る活動とは

振り返る活動とは、めあてを基に、自分の学習活動の中における発見や気づきをポートフォリオを使ってとらえ直す活動とする。さらに自分のポートフォリオを基に教師や友達と自分の学習について対話することにより、気づきを意識化していくことも振り返る活動ととらえる。本研究では、学習過程を表に示すように「ふれる」「追究する」「まとめる」の3段階とし、「追究する」「まとめる」の活動後に「振り返る活動」を組む。

表1 学習過程

ふれる	追究する	追究する	追究する	まとめる
学習のめあてをもつ	活動   振り返る	活動   振り返る	活動   振り返る	活動   振り返る

##### (3) ポートフォリオとは

子どもが学習の過程で収集した資料やメモ、計画表、カード、感想文などを集めてファイルに綴じ込んだものである。子どもが自らの学習状況を振り返って自己評価し、自らの学習に見通しをもつために有効な資料である。

## 2 研究の方法

研究の見通しに基づき以下の計画で授業実践を行い検証する。

### (1) 授業実践計画と抽出児童

対象	富士見村立時沢小学校 2年2組 30名(男子16名、女子14名)	抽出児童	H子：丁寧に観察し気付きもよいが、次の行動へ自分から踏み出すことに躊躇する傾向がある。
期間	平成14年 9、10月 20時間予定		Y男：活動にまじめに取り組むが、自分から積極的に対象に働きかけることに、やや弱さが見られる。
単元名	バスに乗って買い物に行こう		

### (2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証方法
見通し1	振り返る活動～ 学習過程ごとのめあてを明示し、それにより自分のポートフォリオを使って学習を振り返ることや、ポートフォリオを基に教師や友達と自分の学習について対話することは、めあてに対して今までに何が分かって、何が分からないのか、次に何をすればよいのかをはっきりさせることに有効であったか。	・行動観察 ・振り返りカード ・パスポート
見通し2	振り返る活動 ポートフォリオを持ち帰り、活動に対し家の人から助言や感想などの他者評価を受けることは、達成感を高め、次の活動へ自信をもって取り組もうとする意欲を高めるのに有効であったか。	・行動観察 ・作文

## 研究の展開

### 1 単元の構想

<p>本単元は、学習指導要領の(4)にあたり、路線バスという公共の乗り物の乗り方を調べたり、実際にバスに乗ったりする活動を通して、身の回りの公共物を大切に、安全に気を付けて正しく利用できるようになることをねらいとしている。</p> <p>今日の車社会に暮らす子どもたちは路線バスに乗る機会が非常に少ない。大多数の子どもにとって路線バスは、見ることはあっても乗ったことがないという未知の乗り物である。自分たちでその乗り物に乗り、家の人に頼まれた物を買ってくる活動は、緊張感を伴いつつ魅力あるものである。また路線バスに実際に乗ることで、バスはみんなが利用して役にたっている乗り物であることやそのような場所でのマナーやルールが実感として分かるようになる。</p> <p>本単元では、「ふれる」過程において、「買い物に行くためにバスに乗る」という単元のねらいをつかむ。「追究する」では、どうやったら乗れるのかという疑問について、バスや停留所を見たり、バス利用者や運転手、乗ったことのある友達や家の人に聞いたりしながら調べる活動を行う。調べた結果から実際に乗れるかという疑問を投げかけ、子どもの不安を解決するためにバスごっこにつなげる。「追究する」では、調べたことをもとにバスごっこに必要な物を考え、友達と分担・協力しながら道具を作る。さらに「追究する」では作った道具を用いてバスごっこをする。このリハーサルとしてのごっこ活動を通して、マナーを意識したり、安全への注意をしたりしながら自分で乗れるという自信を付けていく。</p> <p>最後の「まとめる」過程において、それまでの活動を生かし、実際にバスに乗って買い物に行き、そして、バスに乗る体験をした後で分かったことをまとめる。</p> <p>それぞれの活動後に、学習物等を蓄積してきたポートフォリオによる「振り返る活動」を組み、自分が何が分かって、何がまだ足りないのかを考えられるようにする。これら一連の活動を通して、めあてをつかみ自信をもって活動に取り組めるようにする。</p>
--

### 2 目標及び評価規準

目標	バスの乗り方について調べたり、体験したりすることを通して、公共交通機関としてのバスの役割や、そこで働く人々の工夫に気付き、ルールやマナーに気を付けて安全に正しく利用することができる。
評価規準	バスの利用の仕方を進んで調べたり、バスごっこに必要な物を作ったりしながら、ルールやマナーを考えて正しく利用しようとしている。(関心・意欲・態度) バスの正しい利用の仕方を考えて、それらを発表やカード、動作化で表現できる。(思考・表現) バスや停留所の様子や働き、安全で正しい利用の仕方や、そこで働く人々の工夫に気付き。(気付き)

### 3 指導計画(全20時間予定) <見取りの視点・・・関心・意欲・態度 思考・表現 気付き>

過 時 程 間	主な学習活動	支援及び留意点	見取りの視点 (見取りの方法)	ポートフォリオ 構成物
	・頼まれた物を買	・「みんなで買い物に行く」という話し合いをすることで		

ふれる	<p>2</p> <p>に行くということを知り、行く先や交通手段を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスについて知っていることを出し合う。</li> <li>・学習のねらいについて知る。</li> </ul>	<p>関心を高めていながら、行く先や交通手段について考えていけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスについて知っていることを話し合い、知らないことが多いことに気付くようにする。</li> <li>・自分たちでバスに乗るにはどうしたらいいか投げかける。</li> <li>・この学習を通して「～になりたいな」「～できたらいいなあ」というめあてをもてるようにする。</li> </ul>	<p>めあてがもてたか。(なりたいカード、行動観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っていること</li> <li>のメモ</li> <li>・なりたいカード</li> </ul>
追究する	<p>4</p> <p>(1)バスを利用した経験を発表する。</p> <p>(2)バスや停留所の利用の仕方を調べる計画を立てる。</p> <p>(3)調べる。</p> <p>(4)バスについて調べたことを振り返る。 <b>(振り返る)</b> <b>見通し1</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用の仕方を紹介させ、教師が短冊に書き込み、利用の順序を確認するために、話し合い、整理して並び換える。</li> <li>・どんなことを調べたらいいか意見を出し合い、何をどこでどのように調べるのか、計画書を作るようにするよう助言する。</li> <li>・調べて分かったことを1枚1枚、分かったよカードに記録するように助言する。</li> <li>・バスのしくみや運転手さんの仕事を調べるために、運転手さんに話をしてもらう。</li> <li>・乗るためのめやすとなることを示した模造紙を提示し、それに照らし自分のポートフォリオを見て、分かったことには青シールを貼るようにする。</li> <li>・班ごとに調べたことを発表し、分かったことは付箋を貼っていくようにする。調べ足りないことを整理できるようにする。</li> </ul>	<p>利用の仕方について話をしたり、友達の話を聞いたりしている。(行動観察)</p> <p>何を調べたらよいか、気付いている。(計画書)</p> <p>調べる方法を考えている。(計画書)</p> <p>進んで調べている。(行動観察・分かったよカード、メモ)</p> <p>分かったことと、まだ分からないことに気付く。(振り返りカード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書</li> <li>・家の人に聞いたこと</li> <li>・分かったよカード</li> <li>・バス停の絵</li> <li>・運転手さんの話のメモ</li> <li>・振り返りカード</li> </ul>
追究する	<p>6</p> <p>(1)バスごっこに必要な物を考える。</p> <p>(2)バスごっこに必要な物を作る。</p> <p>(3)困ったところや足りないところを作りかえる。 <b>(振り返る)</b> <b>見通し1</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを基にバスごっこで使う物考えるようにする。作りたい物の班別になり、どんな材料と道具が必要か相談する時間をとる。</li> <li>・用意した材料と道具で設計図から自分なりに作るようにする。バスごっこでどのように使われるかを考えて作るように助言する。</li> <li>・班ごとにできあがったものを発表し、どんなときに使うか使い方を説明したり、試したりする。友達から出た質問・意見を教師が付箋にメモしておき、班に手渡す。</li> <li>・メモを基に調べ直して、作りかえたり、付け足したりして試行する時間を確保する。</li> </ul>	<p>何を作りたいか分かり自分から材料や道具を用意している。(行動観察)</p> <p>バスごっこに使えるように考えて作っている。(行動観察、設計図、製作物、)</p> <p>自分で試してみたり、友達から意見をもらったりして直すところに気付く。(振り返りカード、行動観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計図</li> <li>・製作物</li> <li>・振り返りカード</li> </ul>
追究する	<p>3</p> <p>(1)バスごっこをする。</p> <p>(2)バスごっこをしてみて、困ったことなどについて振り返る。 <b>(振り返る)</b> <b>見通し1</b></p> <p>(3)もう一度バスごっこをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが作ったバスを実際に走らせてバスごっこを行い、うまくいったこと、失敗したこと、自信がないことなどを一人一人が体験できるようにする。</li> <li>・バスごっこをしてうまくいったこと、失敗したことなどを意識するために色別シールをパスポートに貼るようにする。</li> <li>・バスごっこでうまくできたかどうか発表し、困ったことや自信のないことについては、みんなで解決できるように、良い方法はないか全体に投げかける。</li> <li>・1回目ですぐうまくいかなかったところが解決できるように、2回目のバスごっこを追体験させる。</li> </ul>	<p>意欲的に参加している。(行動観察)</p> <p>うまくいったことや困ったことを発表している。(行動観察、パスポート)</p> <p>もっと正しい乗り方やマナーに気付く。(行動観察、パスポート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パスポート</li> </ul>
まとめ	<p>5</p> <p>(1)本物のバスに乗って買い物に行く。</p> <p>(2)自分のポートフォリオを基に分かったことを絵や文にまとめる。 <b>(振り返る)</b> <b>見通し2</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーマーケットまでの乗り方を確認する。</li> <li>・バスごっこで覚えたみんなで正しくバスを利用する技能を生かして出かけることを投げかける。</li> <li>・班ごとに協力して往復の乗降、買い物ができるように励ます。</li> <li>・本物のバスに乗って、気が付いたことをはっけんカードにメモしておくように助言する。</li> <li>・今までに調べたり体験したりしたことを家の人に知らせようと投げかけ、分かったことを絵や文にまとめるようにする。</li> <li>・まとめたものを家に持ち帰り、家の人から助言や感想を書いてもらうようにする。</li> <li>・ポートフォリオを見て、この学習全体を通して自分ができるようになったことを振り返り、感想を書くようにする。</li> </ul>	<p>友達や教師を頼らずバスに乗ろうとしている。(行動観察)</p> <p>安全に気を付けて正しい乗り方ができる。(行動観察)</p> <p>安全で正しいバスの乗り方や運転手の様子が分かる。(行動観察、はっけんカード、絵や文)</p> <p>満足感をもつことができ、今度は自分で乗れそうだという自信がもてたか。(行動観察・作文)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物計画書</li> <li>・はっけんカード</li> <li>・家の人からの感想</li> <li>・作文</li> </ul>

## 研究の結果と考察

- 1 学習過程ごとのめあてを明示し、それにより、自分の学習をポートフォリオを使って振り返ることや、ポートフォリオを基に教師や友達と自分の学習について対話することは、めあてに対して今までに何が分かって何が分からないのか、次に何をすればよいのかをはっきりさせることに有効であったか

### (1) 振り返る活動

「振り返る活動」では、「どうやって乗るのか」をめあてに「追究する」における自分の学習をポートフォリオを使って振り返った。

「追究する」では、バスの利用の仕方について調べる計画を立て、個人や班で調べ活動を行った。そして調べて分かったことや、家で聞いてきたことのメモなどをファイルしていった。

H子はバス停に行き、時刻表を写してきた。その後、教室で乗り物図鑑を見て運転席に興味をもち、運転席周辺の装置を「分かったよカード」に細かく書いた。

Y男は、調べる計画をたてる時に「おけいこに行く時にお店の近くのバス停の所を通るよ。」とつぶやき、翌日には家の人に目的地の停留所名を聞いて来た。

振り返る活動は、まず、「どうやって乗るのか」を必要な手順（時刻、行く先、停留所名等）に沿って具体的にチェックできるように、子どもに配布したプリントを拡大した図を黒板に張った。そして、自分がすでに分かっていることとまだ分からないことを明確にするために、自分の「分かったよカード」でチェック項目の答えに該当するものに青いシールを貼っていった（資料1）。次に、シールを貼った自分のカードを班に持ち寄り、お互いに何が分かっているのか確かめた。最後に、各班で分かっているチェック項目を発表した。その際、分かっている項目には、どの班が調べてあるか一目で区別できるように班ごとに色の違う付箋紙を貼った（資料2）。

班の発表が終わりに近づくと、子どもたちの中から「これじゃあ帰りのバスに乗れない。」との声があがってきた。黒板の図に示された帰りのチェック項目にどの班の付箋紙もついていなかったからである。子どもたちは、自分たちの班がまだ調べなければならないのは何か、どのグループがよく調べてあるのかを付箋紙の貼ってある様子から、理解することができた。

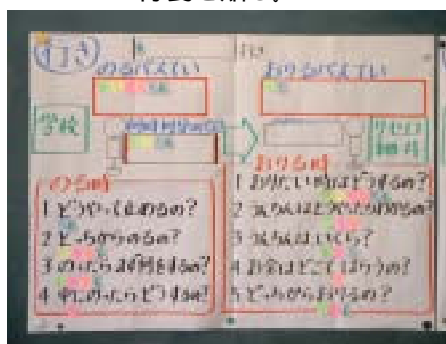
自分のポートフォリオや黒板の図を振り返った後、個人の振り返りカードの「自分が調べて分かったことでバスに乗れそうですか？」の問いに、H子は「すごくふあん」と書いた。「あと何が分かたら乗れそうかな？」の問いには「分からない。」との答えが返ってきた。H子は、自分たちが調べたことだけではまだ乗れそうにないと思ったのである。教師が「青いシールのついてるのは分かったんだよね。黒板に紙が貼ってあるのは班で分かったことだよ。まだ分からなくて心配なことは何か？」と青いシールを貼ったポートフォリオを指しながら話しかけると「帰りが分からない。」と言い、「帰りのバスはどこから乗るのか」ということを書き始めた。

この振り返りでY男は、家で調べてきた停留所名のメモを取り出し、【おりるバスてい】の

資料1 乗り方で分かったことに青シールを貼る。



資料2 班ごとに分かったことに付箋を貼る。



チェック項目の答えとして青いシールを貼った。「自分が調べたことでバスに乗れそうですか？」の問いには、「しんぱい。」と答えた。Y男は、シールや付箋が貼ってない項目があることに気付いてそう書いたのである。そして、次に自分が調べなければならないこととして「帰りのバスはどこでおりののか」を書き出した。

このように、振り返りの具体的なめあて（チェック項目）を示し、シールや付箋紙を用いてポートフォリオを振り返ったことは、今どこまで調べてあるのか、次に何をすればよいかという自分の学習状況を視覚的につかむのに効果があった。

H子は翌朝、教師が教室に入るとすぐに前に出てきて、「朝、学校に来る時、バス停でバスに乗る人を見かけたからバスの入り口をのぞいてみたんだよ。後ろから入っていったよ。小さい白い紙が出てきて、お客さんはそれを取って入ったよ。」と嬉しそうに報告した。次に何をすればよいかという見通しをもてたことで、学習する対象への関心も高まってきたのである。

## (2) 振り返る活動

「追究する」の過程のはじめに、バスごっこに必要な物を話し合った。その結果、バス停、整理券発行機、運賃表、運賃箱、バス本体、運転席、合図ボタン、吊革の八つが挙げられた。その後自分の作りたいものに分かれて製作に取りかかった。

H子は、製作物を決める段階から迷わず運転席の無線を作りたいと意思表示をした。そしてポートフォリオをめくって、乗り物図鑑で調べた運転席の絵をもとに設計図を書いていた。バスの調べ活動で蓄積してきたポートフォリオが、H子の「無線を作りたい」という意欲付けに深くかかわっていたといえる。

「振り返る活動」ではバスごっこに使うために作っていた道具を「バスごっこに使えるか」というめあてから振り返った。ここでは製作物がポートフォリオの構成物である。製作班ごとにできあがったものの使い方を説明したり、試して見せたりして発表した。その後で他の班の友達から質問や意見を出してもらった。友だちの質問や意見により、自分のポートフォリオ（製作物）を振り返ることができるよう意図したのである。

バス停班の発表では、最初、他の班から何も質問・意見がなかった。振り返りのめあてをより具体的にするために教師が「バス停は何のためにあるの？」と全体に問いかけた。すると、他の班の子どもから「お客さんがどこから乗り降りするか分かるようにするため。」「バスが止まるための目印。」という答えが返ってきた。その発言を皮切りにK男の「ちょっと小さいからもう少し大きくすれば。」、Y男の「丸いところが大きければいい。」という意見が出された。教師はそれらの意見を付箋紙にメモして、バス停班に手渡し、班の振り返りカードに貼っておくように指示した。この付箋紙が、友達からの評価の記録である。

一方、自己評価については、バス停班は班の振り返りカードの「自分たちの作った物はバスごっこに使えるか」に対して、「もう少し」と答えていた。そのわけを「字が見えないから」と答えて、改善の時間では、停留所名を大きく書き直していた。友達からのポートフォリオの指摘と自己評価により、次にどこをどう直すかめあてをはっきりさせて修正していくことができたのである。

H子は製作物の発表で「どこに付けるの?」という友達の質問を受けて「運転席のはじっこ。」と答えた。次の時間は、「はじっこに付けても運転手さんが手で持って届くように。」と言って、輪ゴムを長くつなげる作業を続けていた。Y男は合図ボタンを作っていたが友達から「それじゃあ。押せないよ。」と指摘を受けた後、ペットボトルのキャップの内側にスポンジを詰め込み、押すと戻ってくるような作りに改善していった。

このようにポートフォリオを基に教師や友達と自分の学習についてめあてに沿って対話をすることは、子どもたちがどこを直したらよいかに気付き、さらに何をしたらよいかはっきりさせることに有効であったといえる。

### (3) 振り返る活動

「振り返る活動」は、「追究する」で行ったバスごっこの自分の乗り方を振り返るものである。

この「振り返る活動」でポートフォリオの構成物となるのはパスポートと名付けたワークシートである。バスごっこを体験後、安全で正しい乗り方ができたかどうかを色別シールで自己評価を行った。自信をもってできたのは「すいすいできた」(青色) 不安や心配があるのは「どきどきしたけどできた」(黄色) うまくいかないのは「友達に教えてもらってできた」(赤色)の3段階でチェック項目を振り返った(資料3)。

H子は、1回目のバスごっこで黄色だったのに2回目では赤になってしまった項目があった。「料金表を見てお金を用意する」という項目である。教師がその原因を尋ねると、H子は「分かっているからいいやと思っていたら忘れてしまった。」と答えた。教師がこのことについて何かよい方法がないか全体に投げかけると、M男が「降りるところが近くなったら前をよく見ていればいいんだよ。」と答えた。「人がいっぱい料金表が見えなかったらどうするの。」とS子が聞き返した。そのやりとりを聞いていたH子は「ななめから見ればいい。」とつぶやいた。3回目のバスごっこでは、バスが満員で身動きができない状態であったが、H子は料金表を見るために体をねじってのぞき込んでいた。H子はポートフォリオを振り返ることにより問題意識をもち、友達との対話の中で解決の糸口を見出したのである。Y男は初めから全部の項目が青シールであった。2回目のバスごっこの前に「今度はどんなところをもっと上手にできるようにしたいか。」と質問をしたところ「あいさつをもっと大きい声でがんばる。」と答え、自分なりのめあてをもって活動することができた。

資料3 H子のパスポート



## 2 自分のポートフォリオを持ち帰り、子どもの活動に対し家の人から助言や感想などの他者評価を受けることは、次の活動へ自信をもって取り組もうとする意欲を高めることに有効であったか

まとめの過程では、実際にバスに乗ってみて分かったことを「はっけんカード」に記入していった。子どもたちは、合図ボタンが天井近くにもあったことや、吊革が自分たちには届かない高さにあったこと、自分たち以外のお客さんも乗り合わせていたことなどから、バスがいろいろな人に利用されていることを理解していった。また、運転手さんが運転するだけでなくバスの中の機械操作やお客さんの安全に気配りをしていることに気付くなど、仕事の苦勞を感じ取ることができた。これらの「はっけんカード」を含めてこれまでの学習を蓄積したポートフォリオを家に持ち帰り、それについて家の人からの助言や感想を依頼した(資料4)。

### 資料4 子どもにあてた家の人からの感想

はじめてのおつかいごころうさまでした。りょこうやえんそくで大きいバスにのったことはあっても、バスでいであげてお金をはらったのったりおりたりしたことはなかったので、色々な人たちがどんなところへ行ったり来たりしているのかべんきょうできておもしろかったですね。うちへ帰って来てからも、今度は一人で買いものをしたいと、やる気まんまんでしたね。さっそく何かをたのもうかなあ。

【H子の母】

バスにのって買いものに行くまでに、バスについていろいろとしらべてあってビックリしたよ。こまかいところまでかんさつしてあり、紙にはぎっしりしらべたことが書いてあって、Y男は、もうこんなにいろいろと考えられるようになったんだって、お母さんビックリしたよ。【Y男の母】

家の人からの感想には、バスに乗るための事前の詳しい調べ活動や乗ってみて多くの発見ができたこと、おつかいをきちんと果たしたことに対する称賛が書いてあった。感想をもらった

後、この学習で自分はどんなことができるようになったか、自分のポートフォリオを見ながら振り返ってみた（資料5）。

家の人から、「今度は一人でおつかい頼むね。」「一緒に乗ってみようか。」という言葉かけをもらった子どもたちは「今度は一人で行きたい。」「今度またバスにのったらこのベンキョウを思い出すと思います。」という感想を書いて、次の活動への意欲を示していた。

資料5から分かるように、H子は母親に称賛の言葉をもったことにより、バスに乗ることもおつかいも自分でできるという自信を高めていった。そして自分におつかいを頼むように催促までしている。母親からの感想にあるようにH子のやる気に満ちた姿が読みとれる。

Y男の感想からは、自分ができるようになったことを、自分の成長を喜んでくれている母親の目の前で再現して見せたいという思いが伝わってくる。

このことから、まとめのポートフォリオをもとに他者から肯定的な評価を受けることは、子ども自身が自分の成長を認め、次の活動へ自信をもって取り組もうという意欲を高めるのに有効であったといえる。

#### 資料5 家の人から感想をもらった後の感想

##### H子の感想

バスのベンキョウをはじめて時はバスにのる  
かできるときはけれど、なれときたらあんだけ  
してできるようになりました。ママのけんも  
見ても、バスのベンキョウがした、もとバ  
スにのりたいと思いましたが、早く乗  
まじおつかいに行きたいので早くママ、向  
かたのもちの考えとね。

##### Y男の感想

バスのうんでん手さんにおれいも  
た、お金を入れたりすることできる  
ようになりました。こんなし、バス  
の中でやることあるんだなと思  
いました。バスのことでは、自分  
ました。バスの買いものか、おれい時  
は、うらまいた、楽しかった、ので、また  
の、てみたい、でおかあさんと、し  
たいと思います。おかあさん、い、い、い  
の、おれい、早くか、できたことをバスに  
のりながら、孝文、てあげたい、と

#### 研究のまとめと今後の課題

振り返る活動それぞれにポートフォリオによる評価を取り入れたことで、子どもは自分の学習の足跡を見ることができ、めあてに対して自分なりの見通しをもって取り組むことができたといえる。また、まとめでは全体を振り返ることで、自分自身の具体的な進歩や成長に気付くことができた。さらに他者からの評価を得たことは、満足感や自己肯定感を高めていった。このように振り返る活動にポートフォリオを取り入れたことにより、子どもたちの中に、次もやってみようという自信や意欲あふれる姿が生まれてきたのである。

振り返りの活動ではポートフォリオを振り返る観点として「どうやって乗るのか」「バスごっこで使えそうか」を示したが、それらは子どもにとって漠然としてつかみにくかった。そのため「どうやって乗るのか」を、手順に沿ってチェック項目としたり、「バスごっこで使えそうか」という観点に、その道具は何のためにあるのかという視点を与えたりした。そうしたことで自己評価や相互による評価がスムーズに行えるようになった。したがって今後の課題としては、ポートフォリオを振り返る観点は学習過程のそれぞれの段階のねらいに沿って、より具体的であることが重要と考える。

#### 参考文献

- ・安藤 輝次 著 『ポートフォリオで総合的な学習を創る』 図書文化（2002）
- ・『勢多郡教育研究所 研究紀要23号』 平成4年